

## 「新しい旅立ち」

創世記 12:1-4

2024年1月7日  
野村 友美 師

<知らないところに行く時>

皆さん、新年おめでとうございます。

新しい年の最初の日曜日も、こうしてご一緒に神様を礼拝できる恵みを心から感謝いたします。過ぎた1年を振り返ると、それぞれにいろんなことがあったと思います。

この呉教会にも、いろんなことがありました。新しい1年は一体何があるのか、楽しみでもありますし、ちょっと怖くてドキドキもします。今年は特に、元旦から立て続けに大変なことが起きましたね。

能登半島で大きな地震が起きて、今もたくさんの方が避難しておられます。羽田空港での航空機事故もありましたし、事件や火事のニュースも続きました。犠牲になられた方たちのことを思い、被災された方々の慰めと助けを祈りながら、私たちにできる支援をしていきたいと思えます。

本当に、この先に何が待っているのか、どんなことが起きるのか、誰にもわからない1年がまた始まりました。

そう考えると、生きるということは、知らない場所へ旅をし続けることに似ているんじゃないでしょうか。

皆さんは知らないところに行く時、どんな準備をしますか？まずは地図やインターネットを使って、そこに何かあるかを確認したり気候を調べて、どんな物を持っていったらいいかを考えたりしますよね。

どこか他の土地に引っ越す時もそうでしょう。私は12年前、神学校に入るために、生まれ育った関西から東京へ引っ越しました。物心がついてから引っ越しをするのは初めてでしたから、何を持って行こうか、住む所はどんな場所だろうか、周りにはどんなお店があるのかなって、あれこれ調べて考えました。住居の都合で1年ごとに引っ越しをする神学生生活でしたが、その度にやっぱりいろいろ考えました。神学校を卒業して福岡に赴任した時も、その福岡から去年、この呉教会に来た時も同じでした。知らない場所へ移るときは、そこがどんな所で、何が必要かを確認して、いろいろ準備して、やっと安心して出発できるものです。

今日の聖書の箇所も「知らない土地へ旅立ちなさい」と言われたイスラエルの祖先アブラム、のちのアブラハムのことを伝えています。

<知らない土地へ旅立ったアブラム>

神様はアブラムにこう言われました。

「あなたは生まれ故郷を離れて、わたしが示す場所に行きなさい。」

住み慣れていて、よく知っていて、友だちもたくさんいる、生まれ故郷。アブラムの居場所とも呼べるところを離れて、どこにあるかも、どんなと

ころかも全然知らない場所に向かって旅に出なさい、って言われたんです。

あなたがこれから行くのはこんな所だから、こういうものを準備をするといい、なんてアドバイスも何もありません。

どうして行かなきゃいけないのか、理由も説明されません。ただ神様は、アブラムにこう約束されました。

「わたしはあなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。

あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。

地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」

わたしはあなたと一緒に居て、いつでも、どんな人と出会う時もあなたの味方であり続ける。あなたを通して、他のすべての人を祝福する。そんな約束を、神様はアブラムになさったんです。

この神様の約束に、アブラムはどう答えたのでしょうか？

彼は自分一人のことを考えればいいような、身軽な立場じゃありませんでした。妻のサライと、面倒を見ていた甥っこのロト、そしてたくさんの使用人たちと一緒に暮らしていて、彼らの生活を支えていました。それにアブラムは、たくさんの羊や牛の群れも飼っていました。

つまり、けっこうな裕福な人だったようです。

大勢の家族がいて、たくさんの財産がある、ということは、アブラムは彼が属している共同体の中で、それなりに責任がある立場の人だったはずですよ。

神様から「行きなさい」と言われたからって、すぐに荷物をまとめて旅に出るなんてことは、とても簡単にはできなかったでしょう。

しかも、この時のアブラムは75歳になっていました。

希望を持って新しい土地に出ていくには、体にも心にもかなりたくさんのエネルギーが必要です。

「今さら知らない土地に行けなんて言われても、困りますよ神様！」とか、「この暮らしを捨てて旅に出るなんて、とても無理です」とか文句の一つも言いたくなるのが、当たり前なんじゃないでしょうか。

ですが、アブラムは何の抵抗もしなかったようです。聖書はただ一言、「アブラムは、主の言葉に従って旅立った」とだけ伝えています。

どうして行かなきゃいけないのか、わからない。どんな場所に行くのか、そこに着くまでどのくらいかかるのか、そこにはいったい何が待っているのか、何もわからない。

ただ神様の祝福だけが約束されている。

そんなわからない尽くしの旅に、アブラムは家族を連れて出発しました。

知り合いも誰もいない、しかも自分が生まれ育ったのとは違う文化や宗教を持つ人たちが暮らすカナン地方を通過して、ネゲブ地方とエジブ

トを 経由して、またネゲブ地方に戻って、ベテルへ。アブラムはただただ神様の言葉に従って、あちらこちらへと旅を続けました。

#### <神様の言葉に従う最初の一步>

なんでそんなことができたんだろう？って不思議に思わずにはられません。

アブラムはものすごく立派で、勇気があって、完璧な信仰を持っている 超人だったんでしょうか？

神様に文句も言わないで、ただひたすら黙って言う通りにし続ける、そんな素晴らしく忍耐強い、特別な人だったんでしょうか？

いいえ、そんなことはありませんでした。

アブラムが神様に口答えしたことも、時には間違ったことも、聖書はしっかり伝えています。

神様がアブラムに、とてもたくさんの恵みを与えると約束なされた時、アブラムはちょっと拗ねていました。

「でも神様、あなたは私に子どもを与えてくださらないじゃありませんか。だからたくさんの財産をいただいても、どうせ私の子孫じゃなくて召使いの物になりますよ」なんて答えています。年を取った妻のサライに子どもが生まれる、と神様が言われた時には、アブラムは「そんなの無理、無理」とつぶやいて、そっと笑いました。

神様の言葉に反抗もするし、神様がなさることにも期待しきれなくて「そんなことできる訳がない、無理無理」と笑ってしまう。

アブラムだって、私たちと同じような人だった

んです。

ただ彼は神様の約束を信じて、最初の一步を神様の約束を信じて踏み出した人でした。

「あなたと一緒に居る、あなたの味方であり続ける。」

「あなたを祝福するし、地上のすべての人をあなたによって祝福する。」

この神様の約束だけを旅の道標にして、信じて握りしめて、これからどうなるのかも何が待っているのかもわからない旅に、一步を踏み出したんです。

そして、そんなアブラムを神様は絶対に見放したりはなさいませんでした。彼がどんなに反抗しても、疑っても間違っても、絶対に放り出さないで、その旅路を導いて、約束どおりにアブラムを祝福されました。

アブラムとサライの間には、イサクという男の子が生まれました。アブラムからイサク、ヤコブ、と子孫は増えて、やがてイスラエルというひとつの民族になって、そこからイエス様が誕生することになります。

アブラムが踏み出した一步は、今こうして教会に集まって礼拝している私たちにまでつながる、祝福の始まりになったんです。

本当に、最初の一步を踏み出すというのは、とても勇気がいることだと思います。

私たちにとってのその一步は、例えば、イエス様を救い主だと信じる一步かもしれません。

家族や友だちや周りの人たちに、自分の信仰を告白する一步かもしれません。

「敵を愛しなさい」「人を裁くな」「明日のことまで思い悩むな」。

そんなことを言われても、と首を振りたくなるような聖書の言葉に、それでも従おうとして踏み出す一歩かもしれません。

この一歩を踏み出したらどんなことになるか、何が起きるかもわからない。

そう思うと不安で、怖くて、動けなくなってしまう気持ちを、どんな人でも心の中に持っているんじゃないでしょうか。

何が起きるか、どうなるかを、完全に知ることは誰にもできません。

でも、できる限り結果を予測して、少しでも安心できる方向に向かって動きたいと思うのが、私たちにとっての当たり前です。

だから神様は「私が示す場所に行きなさい」という招きと一緒に、こんな約束を私たちにもくださっています。

インマヌエル、神様が私たちと一緒にいる。

これはイエス様の、もう一つの呼び名でもあります。インマヌエル。

神様があなたと一緒に居て、あなたの人生の旅路を導いてくださる。

神様があなたを祝福して、そのあなたを通して出会うすべての人を祝福される。

この約束の証拠が、私たちと同じ人間として、私たちが生きるこの世界にお生まれになった神様のひとり子、イエス様なんです。

このことを信じて受け入れる時に、私たちは最初の一歩を踏み出すことになります。

神様が約束しておられる、祝福への一歩を。

人生の旅路を歩いていく中で、私たちは何回でも神様に反抗して、神様の言葉を疑って、時には間違ったことをしてしまうことだってあるでしょう。それでも、私たちが最初の一歩を踏み出して、神様について行こうとするなら、神様は絶対に私たちを、途中で放り出して見捨てたりはなさいません。

アブラムにそうさせたように、どんな時でも一緒にいてくださって、私たちの一步一步を導いて、驚くような祝福を与えてくださいます。そして一緒にいてくださる神様が、私たち一人一人を通して、すべての人を愛して働かれます。神様はアブラムを祝福するためだけでなく、彼を通してすべての人を祝福するために、アブラムを旅立たせました。

同じように、神様に従って踏み出す私たちの一歩は、出会わされるすべての人に、神様の愛が働くための一歩です。

さあ、この新しい年も私たちは、最初の一歩をここから踏み出していきましょう。

神様が示される場所へ、神様の愛の働きへ、それぞれの人生の旅路を一步ずつ一步ずつ、歩いて行きましょう。

これからの1年も、神様の祝福が皆さんと共にありますように。

私たちの歩みが、一人でも多くの方に神様の愛のわざを届けるために用いられますように。

お祈りいたします。